

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年3月17日（水）

2 確認箇所

物揚場排水路（簡易放射線検知器設置箇所付近）

3 確認項目

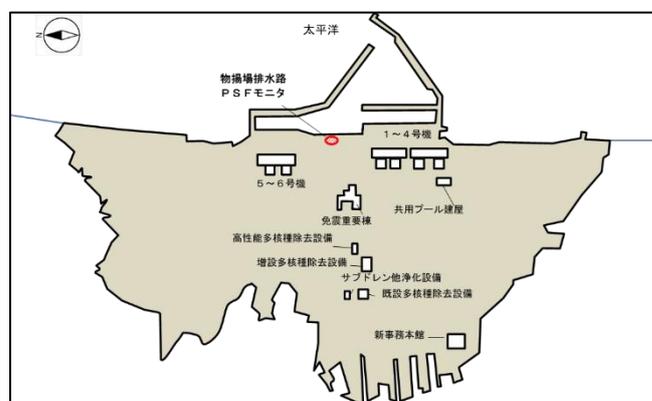
物揚場排水路における簡易放射線検知器「高警報」発生事象の対応状況

4 確認結果の概要

3月2日に物揚場排水路に設置されている簡易放射線検知器（以下「P S F モニタ」という。）において「高警報」が発生した事象の対策の一つとして、ベータ線核種（ストロンチウム90等）の影響を早期に把握することを目的に、A排水路に仮置きしていた弁別型P S F モニタ^{*}を3月12日に物揚場排水路のP S F モニタ水槽内に移設し、既設のP S F モニタと並行測定を行っていた。本日（3月17日）、弁別型P S F モニタをP S F モニタ水槽から取り出して物揚場排水路に直付けする作業が行われたことから、その状況を確認した。（図1）（前回確認：[3月12日](#)、[3月13日](#)）

- ・ P S F モニタ水槽から取り出された弁別型P S F モニタは、物揚場排水路に直接据え付けられた。排水路の水深は約30cmであり、当該モニタの検出部は全て水に浸かった状態であった。（写真1）
- ・ 東京電力によると、当面は、この状態で測定を継続していくとのことであった。

※弁別型P S F モニタ：ベータ線+ガンマ線の検出部とガンマ線の検出部を有するプラスチック・シンチレーション・ファイバモニタのことであり、各々の検出部で測定した値の差からベータ線を測定できる装置。（弁別型ではないP S F モニタはベータ線+ガンマ線の検出部のみを有している。）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
PSFモニタ水槽から取り出した弁別型PSFモニタ



(写真1-2)
物揚場排水路での弁別型PSFモニタ据付け作業の状況
(南側から撮影)



(写真1-3)
物揚場排水路に直付けされた弁別型PSFモニタの状況
(14時25分頃)

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。